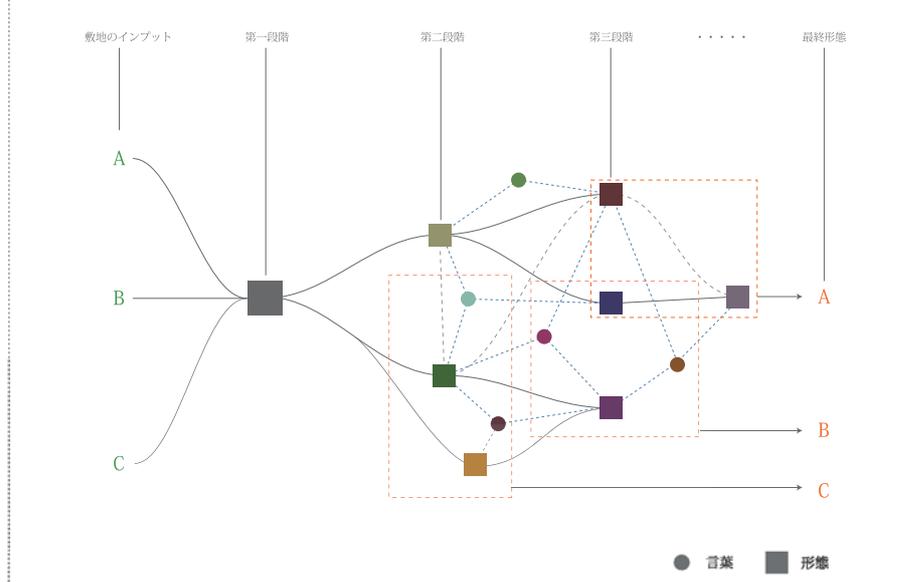


# 未完の空間

—篠原一男の射程を超えて—

芝浦工業大学大学院 徳田直之

## 設計プロセス (イメージ図)



## ■ コンセプトと設計手法

篠原一男の研究では全住宅作品の模型をつくった。そこから特徴的な二つの概念を発見し、それを篠原一男の設計概念として位置づけた。設計ではこの二つの設計概念を踏襲し、応用した設計プロセスに沿って進めていく。それは形態と言葉がセットになってセミラチスに広がるネットワークになっている。(左図参照)

### 設計プロセス

①敷地のインプット まず初めにA・B・Cの3つの敷地を想定し、同時に調査を開始する。②第一段階 いかなる敷地であろうと主軸となる形と言葉を設定する。③第二、三段階 主軸を変形・発展させていく。④設計領域の選定 形態と言葉、敷地状況から最終形態の領域を導き出し、それぞれをブラッシュアップさせていく。

学生の課題では一つの敷地条件が与えられ、一つの建物の収束点を見つけ出そうと進めていくが、私が行う設計はその方法とは大きく異なる。一つの主軸となるテーマを初めに設定し、そのテーマに沿ってスタディを展開させていく。そのテーマができる可能性を最大限に広げた後に、それぞれの建物を構想を開始する。つまり、そのそれぞれの建物には関係性が必ず存在することになる。また、その建物はテーマの可能性の極一部に過ぎないことになる。その設計姿勢は篠原一男の一連の様式に対する姿勢とは異なる。

この設計プロセスが「未完の空間」を作り出す大きなファクターとなる。



fig.1

## ■ 3つのキーワードと3つの敷地

前述の設計手法の第一段階となるテーマを3つ設定した。(fig.1)

「正方形」

「隙間」

「地下」



fig.2

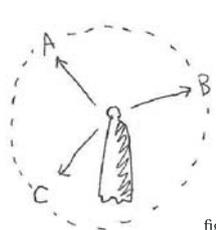
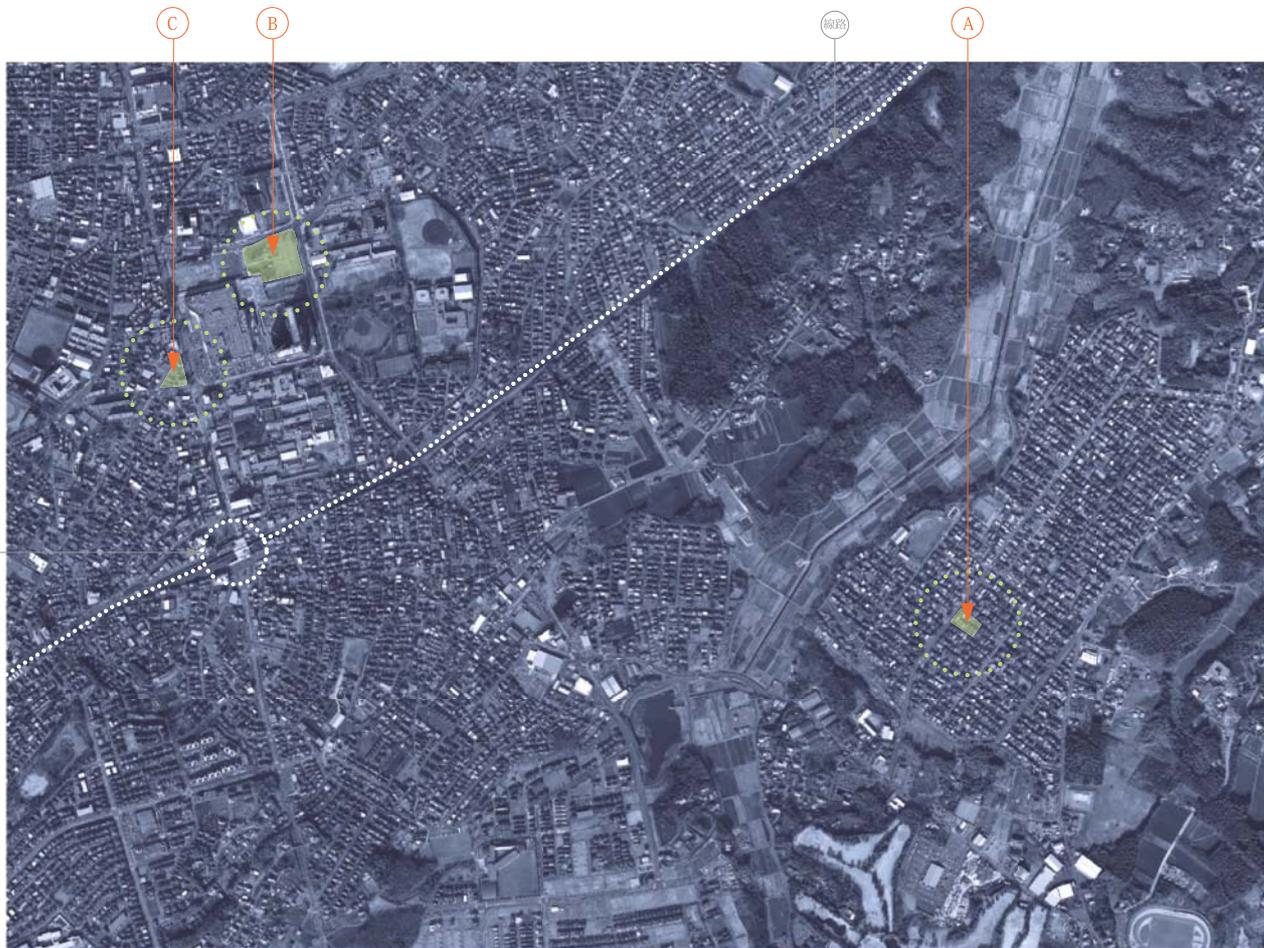


fig.3

この3つは篠原一男の第二の様式から抽出したものである。この3つのキーワードを3つの敷地に当てはめながら設計を行う。それぞれの敷地は繋がりは持っていないが、同じキーワードの元でつくられているためお互いが繋がりを持ちながら反発し合っていく。(fig.2) これは、篠原一男の建築に度々出てくるモチーフや言葉を繰り返していくのと同じ手法をとっている。つまり、「相互接続型ネットワーク」を形成させる。それはまるで、同じテーマの元で3人が議論を進めているかのような相乗効果をもたらすのではないだろうか。以上の考察のケーススタディとして、A・B・Cの3つの設計を3つのキーワードと共に進めていく。



■ 敷地

千葉県四街道市。都心から40km圏内、県都・千葉市からも8kmと利便性の高い立地条件である事から、JR四街道駅周辺はマンションや住宅地が立ち並び、首都圏のベッドタウンとして発展。市内三地点を対象敷地とした。

A 集合団地

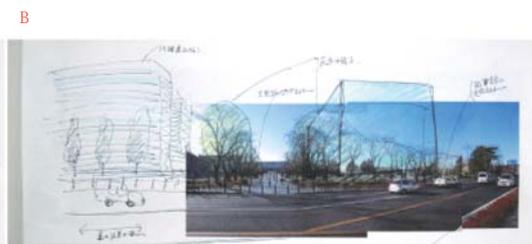
グリッドの道路によって区画されたニュータウン。建て替えも多く新しいと古い家が混在する。

B 公共施設群

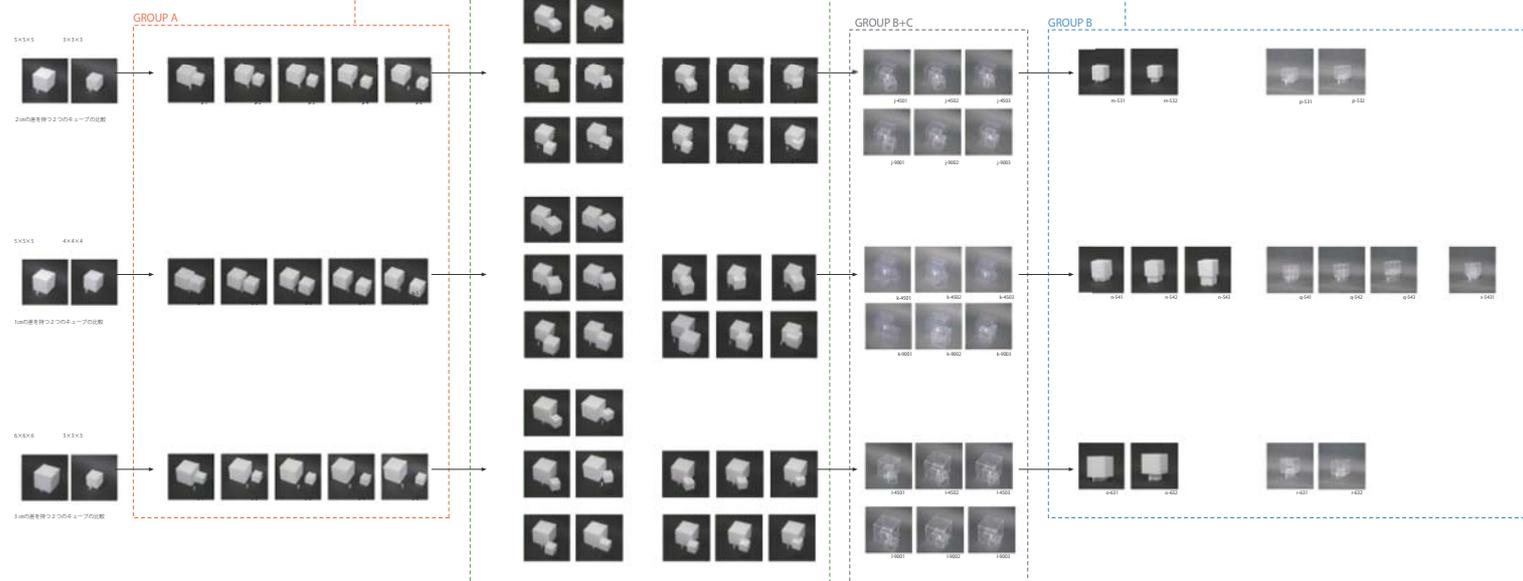
市庁舎、図書館、小学校、ショッピングセンターなどの施設に囲まれた大きな敷地。市の心臓部にあたる。

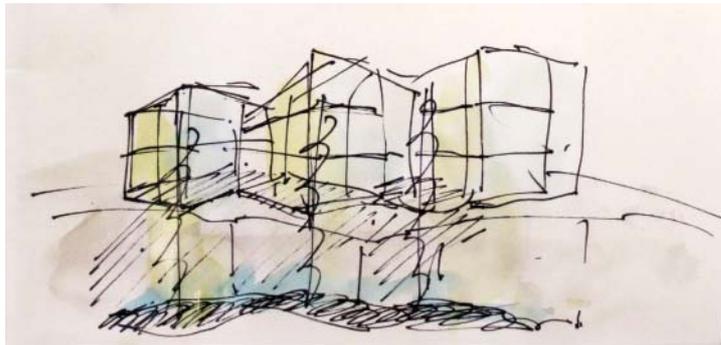
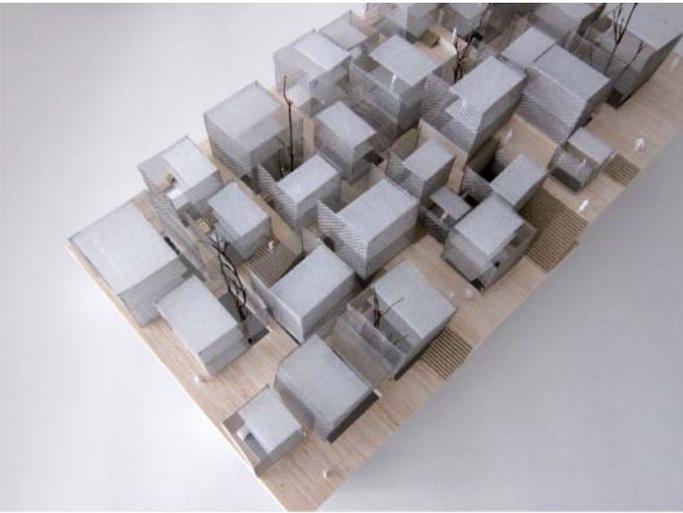
C 公共施設と住宅の境界

デルタ地帯。交通量が多く、駅前ということもあり多人種が行きかう。



■ 形態スタディ





A

地段の家 [Chidan House]

3～7m角の立方体が並べられた集合住宅。透けた素材の建物が重なり合うことで集合住宅の内部に入っていくほど徐々に生活が濃くなっていく。キューブの内部に開けられたヴォイドから光が地下に降り注ぐ。建物の隣等間隔が地下では梁となって現れる。この建築は地下と地上が互いに作用し合っている。

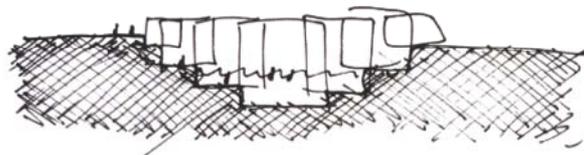
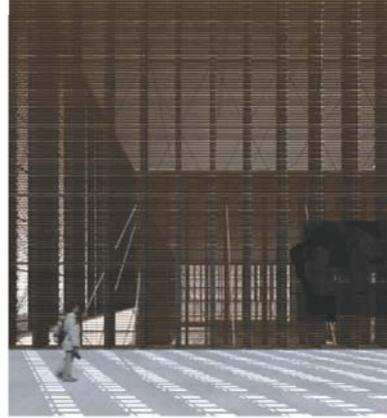


B

箱の美術館 [Haco Museum]

いりこ状に立方体を重ねた美術館。ここでもそれぞれの箱が透けることによって、内部では小さい箱に入っていくほど内部的な空間へ美術へ変わっていく。箱は小さくなると同時に下方へずらされているため、地面の接地面は一番小さな箱だけである。鑑賞者は橋を渡って一番大きな外側(54m角)の箱から入るか、坂を下って一番小さな箱(12m角)からアクセスする。





C

水の谷 [Water Valley]

3~9m角の立方体が角度を振って重なり合ったスパ施設。△型の敷地で、△の三つの角の部分に配置された一番小さな箱からアクセスする。敷地の中央部になるにつれて箱は大きくなっていき、天井面が揃っているために、箱が大きくなるにつれて地下が深くなっていく。一番大きな箱に達したときに外部へと出ることができる。箱の重なった部分が天窓になることで、箱同士の繋がりが方が空間を左右する。

